

報 廣 しばた

7 since 1961
2014
JUL
No.633

清らかな沢水で育てる 富沢の『棚田米』

「棚田での米作りは大変」と話す加藤ナヲエさん。田植え前には丹念に代掻きを繰り返し保水力を高める。200m以上離れた沢からパイプで水を引く。収穫前の稲穂をイノシシから守るため電気柵で棚田を囲む。何度も棚田の坂道を往復し、うまい棚田米の収穫を迎えることができる。

農業に携わる人たちの苦勞をねぎらうように、棚田をはじめ、町内には青々とした水田風景が広がる。

～東日本大震災から3年～

「沿岸部被災自治体への支援」

今月下旬から、各学校は夏休みに入ります。暑い夏の到来に、海を求めている家族サービスを計画する方も多いでしょう。でもそれは、東日本大震災の前のこと。震災後は、県内の海にはほとんど行っていません、とよく耳にします。柴田町も被災地ですが、津波による被害がなかったことで、沿岸部に比べ復興は早く進みました。しかし、沿岸部を含めた国土全体の復興が成し遂げられなければ、私たちも震災以前の生活に戻れないのではないのでしょうか。

震災後、町はみなさんとともに、復興に向けてまい進しました。同時に、沿岸部被災自治体への支援も積極的に行いました。町としては、石巻市や名取市に、給水活動や、り災証明調査などの支援のために職員を派遣したのです。沿岸部の復興ボランティア作業に参加したり、現地に赴くことができない方は義援金を送ったりと、個人として支援の手を差し伸べた方も多くいました。

この沿岸部への支援として町が一番多く関わったのは山元町です。山元町は約半分の地域が、津波により浸水し、その被害は想像を絶するものでした。山元町には、延べ170人以上の職員を派遣、さらに婦人防火クラブのみなさんも職員に同行し避難所での炊き出しを行いました。また、柴田町太陽の村には、山元町磯地区のみなさんが集団で

避難されてきました。苦悩に満ちた避難者のみなさんは、太陽の村で、自衛隊などによる支援も受けながら、約4か月間生活したのです。

震災から3年経った今、「沿岸部への支援」だけではなく「沿岸部や福島県から柴田町に転入された方への支援」にも取り組んでいます。町は柴田町社会福祉協議会とともに、昨年度「花のまち柴田の癒しで紡ぐネットワークづくり事業」を行いました。この事業は、沿岸部や福島県から転入された方、特に高齢者を対象として、柴田町民や転入された方相互の交流の機会を提供し、慣れない土地での生活による孤立の防止を図ることが目的です。参加者のみなさんは、時折涙を流しながらも、交流を深めました。

町だけが、転入された方への支援を行っているわけ

ではありません。毎年「しばたのオープンガーデン」としてお庭を一般公開してくださる槻木地区の佐藤信一さんご夫妻は、震災後、山元町の方をお庭に招待しています。今年は6月8日(日)に、山元町磯地区の17人が訪れ、佐藤さんほか協力者のみなさんが手作りの昼食とケーキでもてなしました。山元町のみなさんも、毎回佐藤さんたちとの交流を楽しみにしているそうです。

震災後、山元町から槻木地区に転入された方は「柴田町は、思っていたよりもコミュニティがしっかりしていた」、同じく船岡地区に転入された方は「通りではよく挨拶される、いい町」と感想を述べています。転入された方の柴田町に対する視点や要望、指摘は、町にとって、新たな魅力を見出すことにもつながると考えられます。

オープンガーデン佐藤さん宅に招待された山元町磯地区のみなさん。



今春、花を咲かせるまで成長した太陽の村の「復興祈願桜」。



耐震強度不足の庁舎を解体し、平成23年7月に建てられたプレハブの山元町仮庁舎。現在もプレハブで業務が進められている。



「花のまち柴田の癒しで紡ぐネットワーク事業」で観光物産交流館敷地内の花壇を整備する、柴田町に転入されたみなさん。

沿岸部の自治体では、津波対策をはじめ新たなまちづくりに懸命です。しかし、マスコミの報道にもあるとおり職員の不足により、業務がなかなか進まないことも問題です。全国の自治体から多くの職員が、沿岸部被災自治体へ派遣されていますが、町でも山元町へ職員1人を派遣しています。この派遣は、震災直後の支援と違い、山元町役場に通勤し同町の業務を遂行するものです。平成24年4月から1年6か月の間、山元町の業務に携わった職員は「着任当時、震災後1年が経過していたにも関わらず、町内のあわただしさは大変なものだった。山元町民から「ありがとう」と言われ、逆に自分が励まされた」と振り返っています。現在も町からは3人目となる職員を派遣し、山元町が早く復興できるよう支援しています。

地域に根ざした児童館として今年11月オープン

三名生児童館の新築工事が始まりました。

大規模な公共工事を紹介します



完成イメージ図

三名生児童館は、昭和44年に幼児保育を行う施設として建設されました。老朽化した施設を建て替え、子育て支援や子どもの居場所づくりを行う地域の児童館として整備することになりました。

子ども・家庭・地域を支援する児童館

「遊び」は、子どもの成長発達になくはならない活動です。子どもたちは、遊びを通じて、自主性、社会性を身につけていきます。自由来館児童室やプレイルームを設けた児童館は、年齢の異なる子どもたちが集う「遊び」に最適な場所です。

また、放課後児童クラブの運営や子育て相談に応じるなど、子育て家庭に対する育児支援を行います。

7月15日にオープン予定の船迫こどもセンターと連携し、地域の子育てボランティアの育成や子育てサポーターの活動支援を行うことで、子どもたちと地域のつながりを広げていきます。

【施設概要】

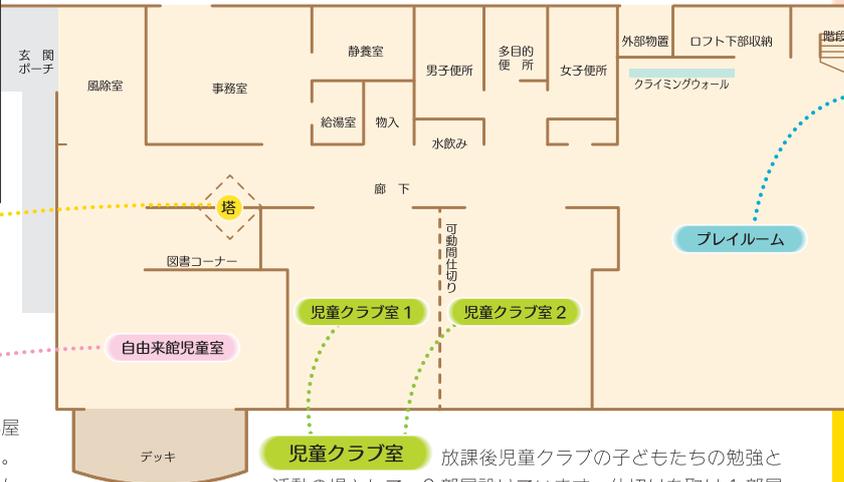
- 主要用途：児童館（児童厚生施設）
 - 構造：木造平屋建て（一部2階建て）
 - 建築面積：439.30㎡
 - 完成予定：11月
 - 事業費：1億6,342万円
財源 国県：5,564万円
町：2,498万円
地方債：8,280万円
- ※林業振興に関する補助金を受け建設しています。

塔 明るく印象的なデザインで、近隣にある東船岡小学校の塔と調和したモニュメントを設けています。

自由来館児童室

子どもたちが自由に利用できる部屋で、図書コーナーを併設しています。平日の午前中は、子育て支援の場として、利用することができます。

平面図



プレイルーム

軽運動ができるよう天井を高くしています。2階部分はロフトにし、壁には高さ2メートル程度の室内クライミングを取り付け、遊びの場をつくります。

児童クラブ室

放課後児童クラブの子どもたちの勉強と活動の場として、2部屋設けています。仕切りを取り1部屋として一体的に使用することもできます。

問 子ども家庭課
TEL 55-2115
FAX 55-4172

町道富沢16号線の道路拡幅工事が行われています。



槻木市街地から富上地区を結ぶ幹線道路「町道富沢16号線」は、槻木小学校の通学路であるとともに、富沢・上川名・四日市場地区をはじめ、葉坂・入間田地区の主要な生活道路として多くの方に利用されていますが、道路幅が約4・0mで車両同士がすれ違いうには狭く、交通事故の発生が懸念されてきました。

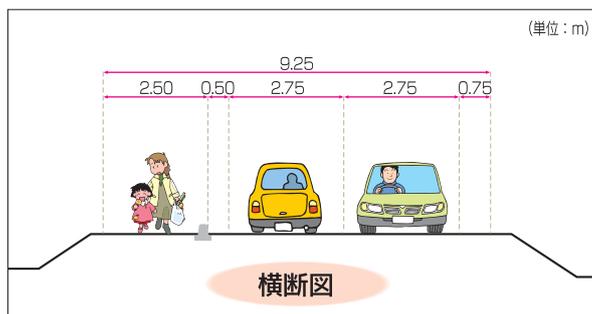


さいか 載荷盛土工事状況

地域住民の方々の強い要望を受け、平成22年度から道路整備事業に着手し、測量調査、詳細設計、用地買収を行ってきました。現在は、道路拡幅予定地の載荷盛土工事を行い、地盤の締め固めをしています。町道富沢16号線の道路拡幅により、歩行者の安全が確保されることに加え、槻木市街地や岩沼市方面への交通アクセスが向上し、観光客の増加や地元農産物の消費拡大など、さまざまな効果が期待されます。完成は、平成29年度の予定です。

【今後の予定】

- 平成 26 年度 さいか 載荷盛土工事、橋梁工事
- 平成 27 年度 橋梁工事、路床盛土などの各工事
- 平成 28 年度 排水工事、橋梁工事
- 平成 29 年度 舗装工事



歩行者通行のため、歩道幅は2.5mとしています。

問 都市建設課 TEL 55-2120 FAX 55-4172

柴田町まちづくりアンケート 調査結果の概要について

町では、平成 23 年 4 月に「第 5 次柴田町総合計画」を策定し、“みんなで育てる 笑顔輝く 元気なまち”を将来像に掲げ、その実現に向けて、みなさんとともに計画的なまちづくりに取り組んでいます。

町のさらなる発展を見据えた後期基本計画（平成 27 年度～平成 30 年度）を策定するにあたり、各分野で取り組むべき施策について、みなさんがどのように考え、どのようなことを期待しているのかを把握するため、柴田町まちづくりアンケート調査を実施しましたので、その集計結果の概要をお知らせします。

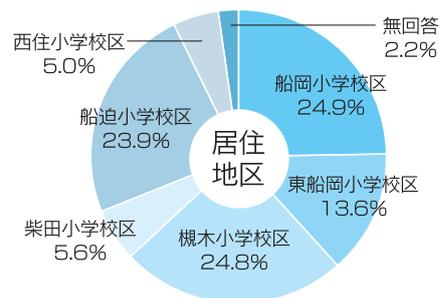
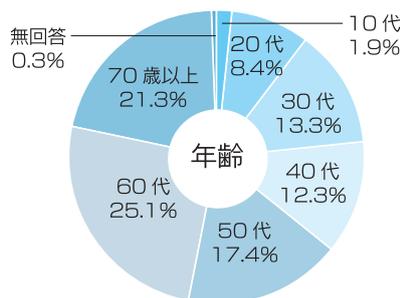
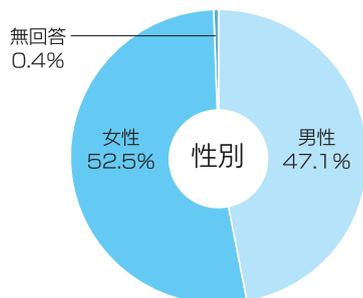
調査および回答者の概要

◎ 調査概要

調査対象：18 歳以上の町民 2,000 名（無作為抽出）
調査期間：平成 26 年 2 月～3 月

調査方法：郵送配付・回収
回収結果：682 人（34.1%）

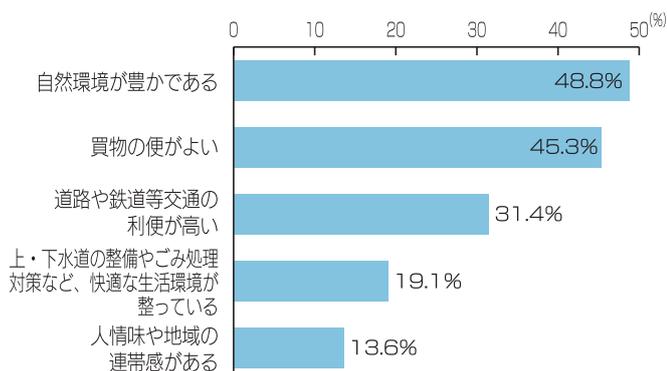
◎ 回答者の概要



柴田町の魅力や住みやすさ、定住意向について

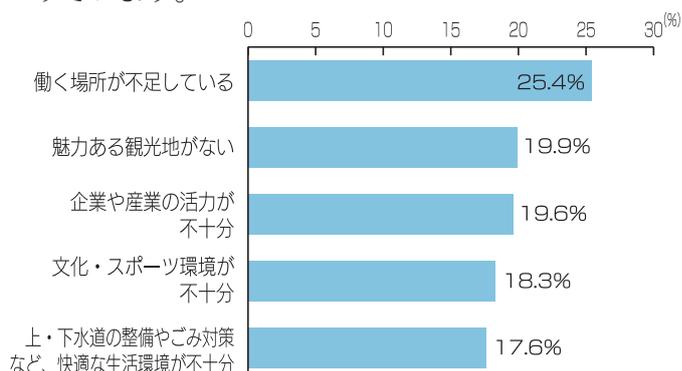
◎ まちの魅力について（上位 5 項目を抜粋）

町の魅力については、「自然環境が豊かである」が最も多く、次いで「買物の便がよい」、「道路や鉄道等交通の利便が高い」を上位に挙げています。



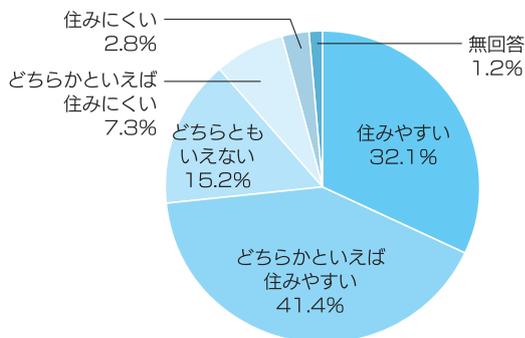
◎ まちの不十分なところについて（上位 5 項目を抜粋）

町の不十分なところについては、「働く場が不足している」が最も多く、次いで「魅力ある観光地がない」、「企業や産業の活力が不十分」を上位に挙げています。



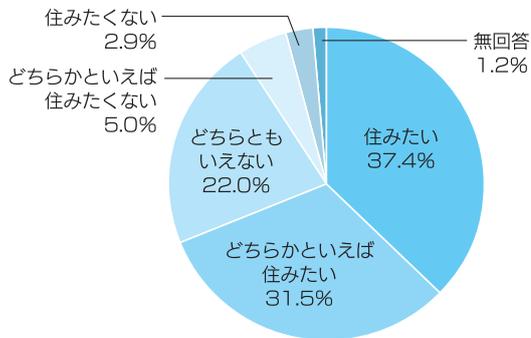
◎ まちの住みやすさについて

「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせて約7割の方は「住みやすい」と感じている一方で、「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」を合わせて約1割の方が、「住みにくい」と感じています。



◎ まちへの定住意向について

「住みたい」、「どちらかといえば住みたい」を合わせて約7割の方は「住み続けたい」と感じている一方で、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」を合わせて約1割の方が、「住みたくない」と感じています。



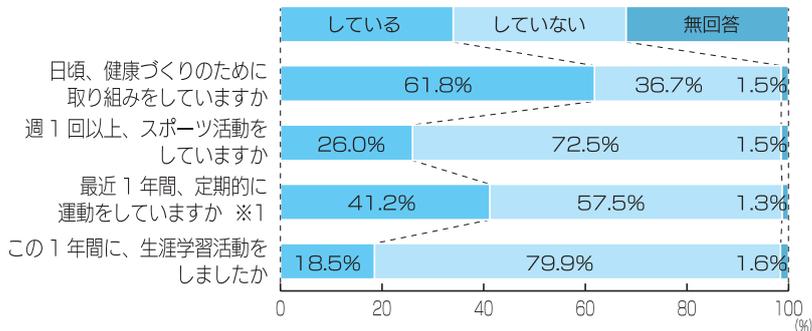
柴田町での暮らしについて

◎ 普段の暮らしで感じていることや取り組んでいること

(1) 健康づくりに関する取り組み

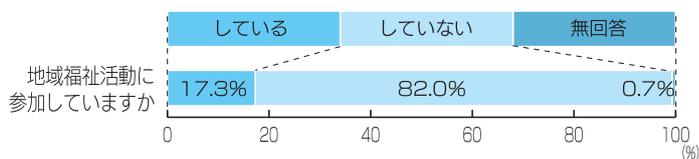
「日頃、健康づくりのために取り組みをしている」方が、約6割となっています。

※1 定期的に運動をしている：週2回以上の頻度、1回30分の運動をしている



(2) 地域での支え合い意識

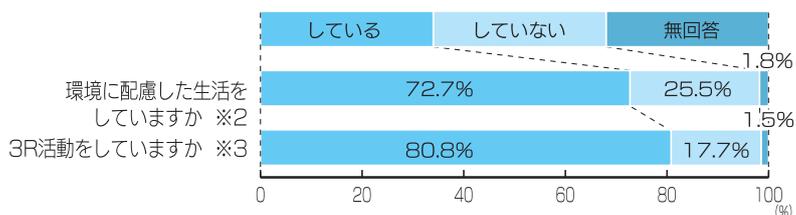
地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動への参加については、「している」が17.3%、「していない」が82.0%となっています。



(3) 環境に配慮した生活意識

環境に配慮した生活意識については、環境に配慮した生活を「している」が72.7%、「していない」が25.5%となっています。

また、ごみの減量化のため、3R活動をしているかについては、「している」が80.8%、「していない」が17.7%となっています。



※2 環境に配慮した生活：環境美化やエコ商品の購入、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど

※3 3R活動：リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）

◎ 災害への備えについて（上位5項目を抜粋）

各家庭での災害の備えとして、東日本大震災以前から行っていた対策と、東日本大震災を経験して必要性を感じた対策について、上位に挙げた取り組みは、それぞれ次のとおりとなりました。

東日本大震災以前から行っていた対策	
第1位	携帯ラジオや懐中電灯などの準備
第2位	卓上コンロや発電機などの確保
第3位	食糧や飲料水などの備蓄
第4位	避難路・避難場所を知っている
第5位	非常持ち出し品の準備や場所を決めている

東日本大震災を経験して必要性を感じた対策	
第1位	食糧や飲料水などの備蓄
第2位	携帯ラジオや懐中電灯などの準備
第3位	卓上コンロや発電機などの確保
第4位	家族との連絡方法や集合場所を決めている
第5位	非常持ち出し品の準備や場所を決めている

まちづくりへの取り組み状況、将来のまちについて

◎ まちづくりへの取り組み状況（満足度・重要度：上位10項目を抜粋）

町で取り組んでいる5つの分野^{*1}46の施策についての評価結果を優先度順^{*2}に表したものです。

優先度の高い施策					
第1位	地震等防災体制	(生活環境・都市基盤)	第6位	道路の整備	(生活環境・都市基盤)
第2位	雇用対策の状況	(産業振興)	第7位	バリアフリー化	(保健・医療・福祉)
第3位	医療体制	(保健・医療・福祉)	第8位	商業振興の状況	(産業振興)
第4位	子育て支援体制	(保健・医療・福祉)	第9位	防犯体制	(生活環境・都市基盤)
第5位	高齢者支援体制	(保健・医療・福祉)	第10位	工業振興の状況	(産業振興)

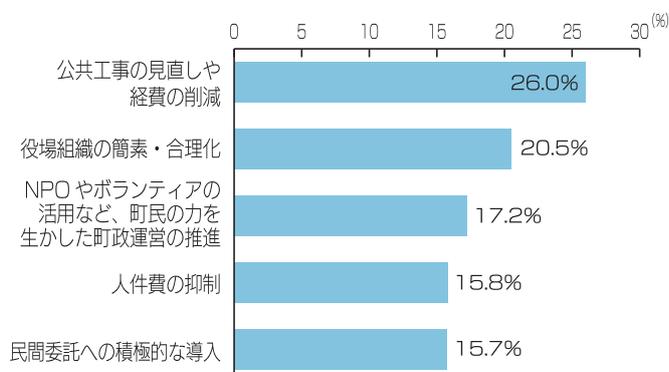
※1 5つの分野：「保健・医療・福祉」（7施策）、「生活環境・都市基盤」（18施策）、「産業振興」（7施策）、「教育・文化・スポーツ」（7施策）、「町民参加・行財政改革」（7施策）

※2 優先度順：全46施策について、それぞれ満足度と重要度を5段階の評価で回答していただきました。満足度が低く重要度が高いものほど優先度が高くなります。

◎ これからの行財政改革について

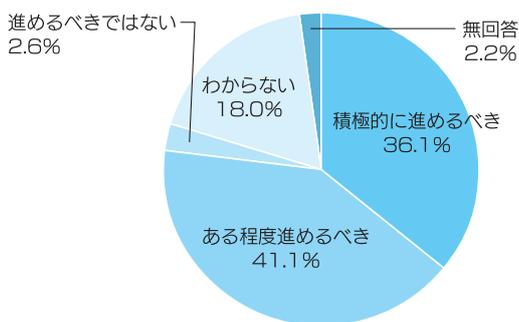
（上位5項目を抜粋）

町が、これからも効率的・効果的な行政サービスを提供するための行財政改革については、「公共工事の見直しや経費の削減」を望む意向が最も多く、次いで「役場組織の簡素・合理化」、「NPOやボランティアの活用など、町民の力を生かした町政運営の推進」を上位に挙げています。



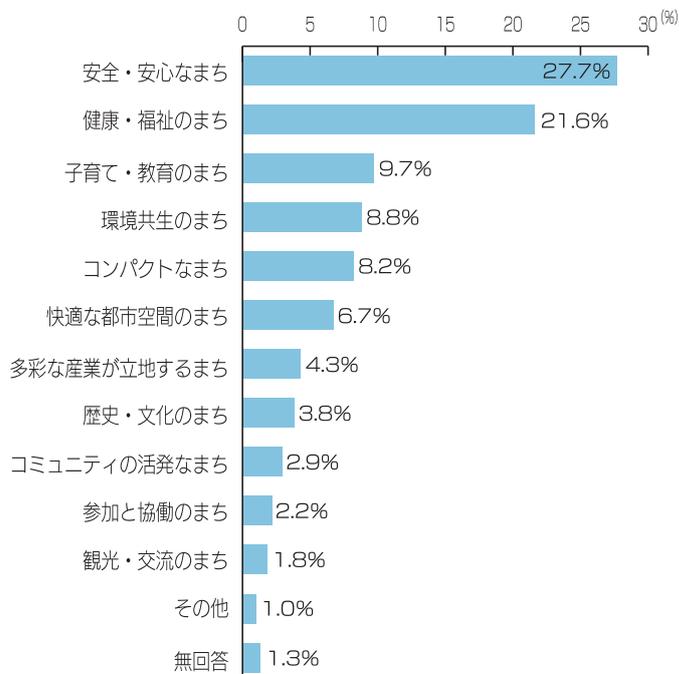
◎ 町民参加・協働について

町として「町民参加・協働のまちづくり」を進めるために、今後の町民参加・協働の取り組みについては、「ある程度進めるべき」が最も多く、「積極的に進めるべき」を合わせた推進の意向は約8割を占めています。



◎ 将来（5年後）のまちについて

将来（5年後）のまちについては、「風水害や地震などの災害に強く、犯罪のない住環境が整備された安全・安心なまち」を望む意向が最も多く、次いで「人にやさしい保健・医療・福祉が充実した健康・福祉のまち」が上位に挙げられています。



自由意見

自由意見欄に意見・提案等を記入した人は、281人で、意見・提案等の総数は519件となっています。「保健・医療・福祉」、「生活環境・都市基盤」、「産業振興」、「教育・文化・スポーツ」、「町民参加・行財政改革」、「その他」の6分野で区別してまとめると、次のとおりです。

	総数	分野別					
		保健・医療・福祉	生活環境・都市基盤	産業振興	教育・文化・スポーツ	町民参加・行財政改革	その他
意見・提案等の件数	519	82	187	49	59	72	70

アンケート調査結果の閲覧について

今回実施した「まちづくりアンケート調査の結果」を参考にして、総合計画（後期基本計画）の策定を進めます。

また、調査結果の詳細は、まちづくり政策課、槻木事務所、まちづくり推進センターで閲覧することができます。なお、町ホームページにも公表していますのでご覧ください。

問 まちづくり政策課 TEL：54-2111 FAX：55-4172



柴田町長 滝口 茂

平成25年度の決算が概ねまとまりました。昨年度は、アベノミクスの経済政策によって、個人町民税や株式等譲渡所得交付金などが前年度よりも伸びたこ

ともあり、普通預金残高(財政調整基金等)が、柴田町始まって以来最高額(15億円)となりました。それとは別に、総合体育館と図書館の新築に向け、1億2千万円を定期預金に積み立てました。このように、柴田町の財政は着実に好転していま

す。思い起こせば10年前、三位一体改革が実行された時は本当につらかった。財政破綻が目前に迫り、お先まつ暗。しかし、柴田町は、仙南2市7町でトップの人口規模であり、しかも、県内有数の工業出荷額を誇ることから、潜在的な力があります。それゆえ、「この危機を乗り切ればなんとかなる」と自分自身に言い聞かせ、究極的な行財政改革を断行することを決意しました。県内でもっとも厳しい改革だっただけに、町民の一部のみなさまからは、「何もしない町長」「このままでは柴田町はジリ貧だ」との批判の大合唱。時として、心が折

好転した柴田町の財政

れそうになった時もありました。しかし、あの時思い切った行財政改革を行っていかなかったなら、東日本大震災を乗り越えられなかったし、現在の柴田町の勢いも生まれていなかったと思っています。

確かに、柴田町の財政はまだまだ磐石いそとは言えない面があることは事実です。もっともととと税収を増やす努力や、国や県の予算を引き出すための「柴田町独自の政策」を提案していかなければならぬと考えています。

これからも「人と企業を呼び込むまちづくり」をモットーに、私自身が、トップセールスマンとして、企業誘致や観光客の集客に努め、柴田町の活性化を図るとともに、国や県をうならせる先駆的な政策提案を行い、財源を確保して参ります。

長年、財政を切り盛りして得た結論は、「切り詰め型」「がまん型」の財政再建より、財政規律を守りながら公共事業の拡大を図る、つまり、積極的に投資を行う方が、資金繰りが良くなり、貯金も増え、結果として財政再建が早くできたということでした。

今後とも、財政計画をしっかり立てながら、行政サービスの拡大や大型プロジェクトの推進に努めて参ります。

始まっています。新しいスポーツのかたち

総合型地域スポーツクラブ 設立に向けて

町体育協会(スポーツ振興室内) TEL 55-2030

来年3月の「総合型地域スポーツクラブ」スタートに向け、設立趣意書がまとまりました。

設立趣意書には、スポーツに親しみ、楽しみながら地域コミュニティづくりを目指すことと、行動目標・5つのチャレンジが示されています。

行動目標・5つのチャレンジ

- ① 文化的活動と融合した幅広いスポーツ
- ② 「する みる 支えるスポーツ」の実現
- ③ こどもから高齢者までの多様なニーズの充足
- ④ 既存団体との連携・協力
- ⑤ 「みんなのスポーツの窓口」としての役割



http://sibaspo.blog.fc2.com/

「する みる 支えるスポーツ」の実現」として、6月7日(土)、町内の小学生を対象とした親子50組100名をべガルタ仙台レディースの公式戦に招待しました。当日は、迫力あるブの試合を観戦し、子どもたちは、選手に大きな声援を送っていました。

すばらしいプレーを間近で見た子どもたちは、今まで以上に、スポーツを楽しんでいると感じ、一生懸命にスポーツに取り組むことでしょう。



「スポーツをする」「スポーツを見る」「する人、見る人を支える」、さまざまなかたちでスポーツに関わることで、人と人との交流が深まり、地域コミュニティの活性化や青少年の健全育成などの効果が期待できます。これからも、たくさんのイベントや広報活動を通し、みなさんのスポーツ活動を推進します。



毎日の食事は、私たちの体を元気にしてくれます。また、家族や仲間との食事は、食べる楽しみを与えてくれます。生きていくうえで欠かせない大切な「食」を考えてみましょう。

今回のテーマは「食への感謝」です。

どうして「食へ感謝」するの？

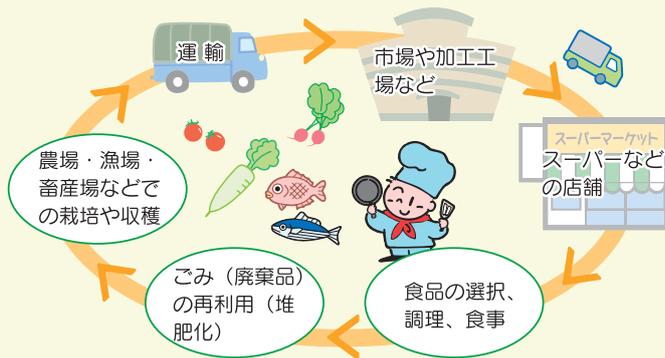
私たちの食卓に並ぶ料理の食材は、生産者など多くの人々が心をこめて作ったものです。

また、私たちが「食べているもの」は、そのほとんどが「生き物」であり、「いのち」をいただいています。家族で食卓を囲み、親から子どもたちへ「食」への感謝を伝えましょう。



「食」はどんな人に支えられているでしょう？

「食」はさまざまな分野の人が関わっています。



「食への感謝」をしてみましょう！

- ①「いただきます」「ごちそうさま」を言きましょう。
- ②家族の買い物や調理を手伝いましょう。
- ③調理してくれる家族に「おいしい」や「ありがとう」を伝えましょう。
- ④「食べ残し」や「料理の作り過ぎ」などを減らしましょう。

槻木保育所の「食育の取組」を紹介します

「野菜は、どうやってできるの?」「実はどこになるの?」保育所では、野菜づくり体験をとおして、栽培学習を行っています。子どもたちと保育士と一緒に、「畑の土作り・野菜の苗植え・水やり・収穫」を行い、楽しみながら体験します。自分たちで作った野菜はとてもおいしく感じ、食への感謝の気持ちも育みます。5月23日に「ゴーヤ」や「トマト」の苗を植えました。収穫が楽しみです。



慣れない手つきで、一生懸命苗植えをする子どもたち。

広 告

広 告

まちかど NEWS



「古本市」でお目当ての本を探すみなさん

柴田町図書館は 開館4周年を迎えました

NEWS

5月25日(日)、柴田町図書館で開館4周年を記念して、図書館誕生祭が開催されました。当日は柴田町図書館サポート委員会の協力により、除籍した図書を希望者へ譲る「古本市」などイベントが行われ、約400人が集まりました。サポーターの高橋敏晴さんは「年を追うごとに利用者が増え、とてもうれしい限りです」と話してくれました。

柴田町図書館は、図書貸出数や来館者数が年々増加し、平成25年度は112,441冊延べ47,760人に利用されています。



誕生祭のイベント「茶道体験会」で煎茶のたて方を学ぶこどもたち

阿武隈急行沿線でおもてなし ～ジパング宮城・福島号～

NEWS

臨時イベント列車「ジパング号」が、6月7日(土)、8日(日)阿武隈急行株式会社主催で運行され、阿武隈急行沿線の各駅では、乗車された方に特産品がふるまわれるなどのおもてなしが行われました。

槻木駅では、町のイメージキャラクター「はなみちゃん」が、ホームでお出迎えしました。乗車した船迫地区の新坂篤生君は「わくわくして眠れなかった。とても楽しみです。」と笑顔で話してくれました。

*ジパング号は世田原(平泉)の歴史をイメージした特別車両で、1号東北本線の盛岡・ノ蘭駅間で運行されています。



臨時イベント列車 485系ジパング号に乗りし、ちょっと贅沢な旅を楽しみました

広 告

広 告

「児童演劇地方巡回公演」 感想文コンクールに入選



賞状盾と公演劇団の色紙を持つ後藤萌音さん

榎木小学校5年の後藤萌音さんが、全国約2500人の児童が応募した「平成25年度児童演劇地方巡回公演・感想文コンクール」で《個人賞(5名入賞)》を受賞しました。校長室で、受賞を報告してくれた萌音さんは「演劇がおもしろく、思うことがたくさんあり、楽しく感想を書く事ができました。また演劇を観たいです。」と話してくれました。

*児童演劇地方巡回公演は、公益社団法人日本児童演劇協会(以下、協会)の事業で、全国23県で行われ、柴田町では「劇団エンゼル」が公演を行いました。

地域の方に教わりながら 花壇づくり



しばたっ子応援団(写真左)と一緒にひまわりの苗を植える児童たち

学校の教育活動や環境整備を支援する2人の学校支援ボランティア「しばたっ子応援団」の指導を受け、6月4日(水)、船岡小学校3年生2クラス60人が、花壇づくりを学習しました。

ひまわりやホウセンカの植え方のほか、ピーマンなどの野菜の植え方を教えてもらい、3年生の阿部隼哉さんは「大変だったけど、元気に育ってほしいです」と話してくれました。



リーグ優勝し、歓喜に沸く選手たち

34年ぶり待望のリーグ制覇 ~仙台六大学野球春季リーグ~

仙台大学硬式野球部が、仙台大大学野球春季リーグで、1980年秋以来、34年(67季)ぶり3度目の優勝を果たしました。

野球部のメンバーは、6月3日(火)役場を訪れ、優勝報告を行い、最優秀選手に選ばれた熊原健人投手は「自分たちが歴史をつくる立場になりました。地域の応援をうけ、がんばります」と、意欲を見せていました。

6月10日(火)から神宮球場で開催された全日本大学野球選手権大会では、見事ベスト8に輝き、新たな歴史をつくりました。

広 告

俳句

草をひく大地と会話交しつづ
 楓木 永井 堯
 品書きのまこと達筆初鯉
 下名生 笠松ふみ子
 あかしやの甘い香りに蜂集う
 西船迫 玉手みき子
 せまり来る山一面にくまがい草
 西船迫 安ヶ平奈津枝
 磨崖仏やんまんとんぼの羽音かな
 小野 憲彦
 夏草の覆ふ炭釜古墳かな
 江戸 裕子
 坂がかる道新緑の湖沼群
 上遠野三恵
 マウンドで領いてゐる夏帽子
 鎌形 清司
 刺しかけのクロスステッチ梅雨じめり
 鈴木 清子
 紫陽花や十四行の離縁状
 鈴木 三山
 桑の実や白石川の渡し跡
 鈴木 幸子
 恍惚と宵の風鈴奏でをり
 相馬カツオ
 夏霧を深く味はふ黒茶碗
 石母田星人
 青がえるアジサイ葉っぱで思案顔
 船岡 安藤 節子
 河鹿聴き冷つと奴酒二合
 大槻 信吾

川柳

着物解き世界に一枚のコート出来
 船岡 阿部美代子
 何事も挑戦ですと一句詠む
 船岡 伊藤タイ子
 ウオーキングいつもの道をもう忘れ
 西船迫 安ヶ平良三
 大相撲インターナショナル三横綱
 西船迫 渡辺 晴奈
 田植終え夏が来るよとカエル鳴く
 船岡 佐々木正吉
 妻こそは我が心の宝物
 船岡 加藤 利通
 柔軟な身体になりたい時おそし
 楓木 つきのき町子
 流れる雲行方知らねどそれでいい
 船岡 小野寺一彩
 権力へ煮立てた顔で吠える息
 船岡 幕田 昇
 頼もしい父親の一喝身に沁みる
 船岡 佐藤 春市
 止むを得ず選んだ嫁の世話になり
 船岡 菅原 三男
 怒声一喝明治の父は強かつた
 船岡 長尾 純子
 生きているだから泣いたり笑ったり
 船岡 早坂 洋子
 台風が行く先々で邪魔をする
 四日市場 坂本 一風
 髪染めて夫に若きプレゼント
 四日市場 齋藤夢太郎
 雨上がり畑に映えるキジの赤
 船岡 千 舞

短歌

庭先の孫の名書いた鉢植えは 今年も元気をくれる朝顔
 本船迫 森田 眞六
 駅ホームに二人の少女が語らいてやがて弾けて別れゆく夕刻
 船岡 柄目けい子
 在りし日の人たちをふと思う時いつも柔和に微笑んでくれて
 船岡 沢田 順子
 黄昏も思いを籠めて短冊に夢は叶ふさそんな気がして
 船岡 荏神 葛
 送られし漬物桶を洗う毎水面に浮かぶ義母の顔
 西船迫 三澤 精一



はなみちゃんからの フラワーレター

花と緑の観賞会「しばたのオープンガーデン」が、6月8日(日)と15日(日)に開催されました。各庭園は多くのお客さままでにぎわいました。公開して下さった庭主のみなさん、ありがとうございました。また、特色ある里山など、常時公開されているところもあります。パンフレットで確認のうえ、観賞してください。



広 告

広 告



夢空間 2014



はなちゃん (ペンネーム)



女王の番犬 (ペンネーム)

ひとこと

健やかな成長を願っています。

(父：剛 母：まゆみ)



smile kids

渡邊めぐみちゃん(1 カ月)
(槻木下町)

smile kids

お子さん(4歳まで)の写真をお待ちしています。写真の裏にお子さんの名前を必ず書いてください。投稿者の住所、氏名、電話番号、子どもの名前・生年月日を明記し、「ひとこと」を添えて応募してください。

ふれあいマイタウンは、町民の皆さんからの応募・紹介でつくるコーナーです。俳句・川柳・短歌に興味がある(こほう文芸)、とてもすてきな方なので紹介したい(人間もよう)、自己表現コーナー(夢空間 2014)、お子さんの成長の写真やかわいい孫の写真を載せたいという方(町内にお住まいの4歳以下のお子さん)、はがき、手紙などで7月7日(月)までご応募ください。 ※お名前や作品の読み方を記載してください。

■連絡先/まちづくり政策課 ☎ 54-2111

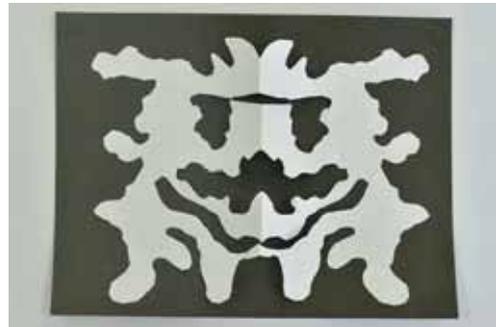
こども美術館



「見たこともない顔」

船迫小学校 5年

さくらい ゆうな
櫻井 優菜 さん



「見たこともない顔」

船迫小学校 5年

おおつき こうた
大槻 航太 さん

広 告

広 告

広 告

思いを胸に

『消費者のことを第一に、安全な製品をつくります』

町内で働く若い世代の方の思いや夢などを紹介するコーナーです。



工場内で薬剤包装の工程管理をする鈴木さん

三井化学グループの宇都宮化成工業株式会社船岡工場は、農家のみなさんにとって欠かせない農薬などを製造しています。ここで働く鈴木浩之さんと加藤育美さんを紹介いたします。

工場では、殺菌剤や殺虫剤などの農薬を製造し、年間約4千トンの製品が出荷されます。製品の生産管理に携わる鈴木さんは「生産管理の中でも、原材料や製品の在庫管理は、とても重要な仕事で無事に終わると充実感があり、ほっとします。」と話してくれました。

最近、家を購入され「まもなく2歳になる子どものためにも仕事をがんばらないといけない。家庭の充実が仕事への意欲に繋がります。」と目を輝かせています。

加藤さんは、会社の経理を担当し、製造部門と連携して業務をこなしています。毎朝歩いて通勤している加藤さんは「通勤途中、ジョギングをしている人や花を植えている人が、挨拶をしてくれます。うれしく、穏やかな気持ちで、職場に行く事ができます。」と町の人のあたたかみを話してくれました。

宇都宮化成工業株式会社 船岡工場

製造部製造課係長 **鈴木 浩之**さん(39)
すずき ひろゆき
 管理部経理課 **加藤 育美**さん(32)
かとう いくみ

お二人とも、食の安全と環境保護に最も適した農薬を提供することで、生産者のみなさんへ手助けができれば良いと思っています。お客様のことを思う鈴木さんと加藤さんは、これからも高品質で安全な製品を製造し続けます。

宇都宮化成工業株式会社船岡工場



柴田町大字船岡字滝沢 1-6

昭和36年創業、平成24年に現社名に変更、社員数46名。三井化学アグロ㈱が開発した農薬、生活環境薬剤を製造しています。常にお客様の視点に立ち、農業の発展を目指しています。



経理事務を行う加藤さん

人口と世帯数
(平成26年6月1日現在)



38,530人
(前月比20人増)



19,161人
(前月比5人減)



19,369人
(前月比25人増)



15,190世帯
(前月比5世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。

特集

3 2 1

「東日本大震災から3年」大規模な防災工事を紹介し、柴田町長へのインタビュー調査結果の掲載と、

2014年7月1日(633)号 発行/宮城県柴田町 編集/ちちつくろ政策課
 〒989-1692 宮城県柴田町柴田船岡中央2丁目3番45号 ☎0224-54-2111
 FAX 0224-55-4172 URL http://www.town.shibata.miyagi.jp/